Genius Party

2007(平成19)年6月6日鑑賞〈角川映画試写室〉 ★★★

第1話 GENIUS PARTY（監督＝福島敦子）、第2話上海大竜（監督＝河森正治）、第3話デスティック・フォー（監督＝木村真二）、第4話ドアチャイム（監督＝福山庸治／出演＝栩原楽人／岩井七世）、第5話 LIMIT CYCLE（監督＝二村秀樹／出演＝三上博史）第6話夢みるキカイ（監督＝湯浅政明）第7話 BABY BLUE（監督＝渡辺信一郎／出演＝柳楽優弥／菊地凛子）（日活配給／2007年日本映画／104分）

……この映画は、7人の映像作家が自由にその才能を発揮させたもの。したがって、ストーリー性よりもイメージや映像の美しさを優先させている（？）ため、私の頭ではなかなかついていけない感が……。実写よりアニメ、アニメより CM 映像の好きな方、あるいは「絵画は断然抽象画」という人は是非……？

ジーニアス・パーティとは……？

この映画のプレスシートの1ページには、「What's Genius Party ？」というタイトルで、この映画は STUDIO 4℃の下に集まった7人の映像作家たちが自由にその才能を発揮させたもの、という解説が載せられている。STUDIO 4℃ とは超先鋭的映像クリエーター集団で、各種のテレビ CM やプロモーション映像をつくり、またアニメを製作しているとのことだが、残念ながら CM 映像の世界やアニメに疎い私は、よく知らないものばかり……。

最初に登場するのが、福島敦子監督の『GENIUS PARTY』で、その映像の美しさには確かにビックリするものの、そこに描かれている世界は抽象的なものであるため、私の頭がそれについていけないのが実情。プレスシートを読むと、「イメージが生まれるその瞬間をテーマに、福島敦子監督ならではの世界観で表現した、プロジェクトの象徴とも言うべき表題作」とあるが、どうも私には……？

上海大竜も……？

第２話では、冒頭「上海の旧市街」という字幕が流れ、鼻たれ小僧たちが遊んでいる中に突然怪しげな物体が出現してくる。その中から１本のスティックを拾い上げたのがこの鼻たれ小僧だが、彼がそれを使って地上にパンの絵を描くと、彼の手にはおいしそうなパンが……。これを見た悪ガキたちは鼻たれ小僧からそのスティックを奪って……、……、……。

そんな物語が展開されていくのだが、何とこれが全編中国語で字幕なし……。一体いつまでそんなおふざけを続けるのだろうと思いながら観ていると、あるシーンからはやっと日本語のセリフが登場し、また中国語のセリフには字幕がつくようになったが、その後の展開はハチャメチャというか、奇想天外というか、SFマンガというか、とにかくそんな内容……。第２話も映像はきわめて美しいのだが、そういう訳のわからない物語が好きでない私には、ちょっと……？

第３話も第４話も……

第３話『デスティック・フォー』は、一匹のカエルと、そのカエルと出会ったロットを中心とした物語（？）でこれもたしかに色彩は美しい……。しかし……？

第４話『ドアチャイム』は、主人公裕（栩原楽人）がもう１人の自分を発見し、そんな姿に翻弄されていく姿が描かれ、不条理で不思議な世界が浮かびあがってくるという物語だが、その内容はイマイチ……。

第５話と第６話は……

第５話『LIMIT CYCLE』では、これまた不思議な映像世界が描かれる。都市の高層ビルのオフィスでパソコンに向かう１人の男（三上博史）が仕事を終えてまちにでた時に発見したのが、１匹の幻想的な蝶。そして、男がその蝶を追っかけていくうちに見つけたのが、自分と同じ姿をした１人の男。さて、この男は一体何モノ……？

第６話『夢みるキカイ』の主人公は、１人の赤ん坊。美しい色彩感覚の中に浮かびあがる純真無垢な赤ん坊が、不思議な世界を遊泳する姿は幻想的で美しいものだが……？

柳楽優弥と菊地凛子の「共演」に注目！

渡辺信一郎監督の第７話『BABY BLUE』は、唯一私でも十分理解できる、人間が登場するストーリー。とはいっても、ちょっと刹那的で虚無的なストーリーで、今風の若者受けしそうな内容（？）になっているところが興味深い……？　この第７話には、何と2004年第57回カンヌ国際映画祭で主演男優賞に輝いた柳楽優弥と、2006年第79回アカデミー賞助演女優賞にノミネートされた菊地凛子が声の「共演」をするというから、ひょっとして第７話だけは予算オーバー……？

翔（柳楽優弥）は今高校２年生で、葉月（菊地凛子）は高校１年生。葉月が女子中に進学したため中学校は別だったが、翔と葉月はもともと小学校時代の幼なじみ。そして、今は同じ高校で毎日顔を合わせているものの直接話をする機会はなかったが、なぜか今日は成績優秀で優等生と思われている翔が、「明日や将来のことをすべて忘れて、今日好きなことをやらないか」と葉月に対してヘンなお誘いを……。ヘンな男から急にそんなことを言われたらきっと葉月は拒絶するだろうが、そこは信頼している翔のこと。「じゃあ、そうしようか」となった後、２人が出かけたのは湘南の海。さて、２人は一体何を考えながら、そんな行動をとったのだろうか……？　また、その旅の途中に待っているものは……？　出会う人たちは……？　そして、２人の意思とは別に、必然的に訪れてくる２人の明日は……？

こんな人にお薦め……

この映画は、クリエイティブな７人の映像作家が自由に映像をつくり出しているから、どうにもストーリー性よりもイメージや映像美を追い求めることに……？　テレビCMだって、15秒の間に何をどうアピールするかはまずイメージ勝負で、ストーリー性のウエイトは低いはず。したがって、私のような、アニメより実写の方が好き、そして実写でも歴史モノや恋愛モノを中心としたストーリー性重視派（？）は、この手の映画は当然苦手……。

逆に言えば、実写よりアニメが好きな人や、CM映像に興味・関心をもっている人には是非お薦め。また、絵画なら断然抽象画という人にもお薦めだ。

2007(平成19)年６月８日記